

2月2日

市長室で執務を行う栗市長



ごあいさつ

平成30年2月2日

「雪の結晶は天から送られた手紙である」と名言を残したのは石川県出身の物理学者、中谷宇吉郎博士です。科学者とは思えない浪漫ある表現ですが、今年は先月中旬から本当にたくさんの「天から送られた手紙」が届きました。

これだけまとまった雪が降るのは久しぶりのことです。最近の天気予報は精度も高まり、それほど、はずれることはありませんが、今回の予報を超えるような積雪量には驚きました。基本的には市の除雪計画に基づき、路線の優先順位をつけて対応させていただいておりますが、朝方早くに除雪に入ったあとに降り積もるなど、自然が相手ですので「想定外」のことも起こります。能登では水道管の凍結により、復旧の目処がたたない断水状態になり、本市からも給水車を毎日出動いたしました。これだけ低温が続くと水道管の凍結だけでなく、エアコンの温度が上がらないなど日常生活にさまざまな弊害が出てきます。

市民の皆さんも突然の大雪に戸惑われたことと思いますが、町内会や隣近所でご協力されての除雪もいただきました。それなりの対策はとれたのではないかと感じていますが、対応への課題がないわけではありません。雪害もひとつの天災と捉えて、今後の教訓としていきたいと思っております。

2月1日から、隣の金沢市では家庭ごみ有料化制度が始まりました。野々市はこれからどうなるのか、と不安に思われているかもしれませんが、直接的な影響はないと考えています。ごみはそれぞれの自治体で対応することになっており、本市では広域事務組合がごみ処理にあたっています。野々市市においては、市民の皆さんのごみに対する意識が高く、お陰さまでわずかではありますが、ごみが減量になっており有料化については考えておりません。

自分たちが生活する環境を整えたいという気持ちを持つことで、自然とその意識が行動にでます。その積み重ねのひとつひとつが、「住みやすいまち」「住んでよかったまち」につながるのではないかと思います。

厳しい天候が続きますが、今年の今ごろは「第27回全国椿サミット野々市大会」の準備に明け暮れていました。あれからもう一年経つのかと思うと感慨深いものがあります。例年開催する「花と緑ののいち 椿まつり」との同時開催で、主会場となった文化会館に全国からお越しいただいた皆さんをお迎えし、本市ならではの「おもてなし」に大変感動したとの声をたくさんいただきました。今年は3月3、4日と長崎県新上五島町で「第28回全国椿サミット」が開催され、私も昨年のお礼もかねて出席させていただきます。

椿のつぼみも雪の衣をまといながら、私たちと同じに春の訪れを待ち焦がれています。今年も3月17、18日は「花と緑ののいち 椿まつり」を開催いたします。

時節が移り変われば、「天から送られた手紙」は暖かな春の日差しに変わります。